

いわみざわ男女共同参画マガジン

# ア・ライク

ア・ライク (A'like) ~共に生きる~  
＜同様の・等しく＞という意味を持ちます。

2017年 VOL. 15



撮影：尾崎 和男 氏

＜岩見沢名所探訪シリーズ②＞

## 志文町 ポプラ並木

いわみざわ公園周辺のポプラ並木は、今から15年程前に、公園周辺の市道の街路樹として整備されました。

初めは3m程だった樹高が、今では20m程まで成長し、バラ園やキタオン、キャンプ場やパークゴルフ場など、いわみざわ公園を訪れる方々を歓迎してくれています。

総延長6,086mの間に675本植えられており、夏の岩見沢らしい風景をつくり出すのに一役かっています。

【所在地】岩見沢市志文町の市道東18号(写真)、南7線、志文南8線、志文南9線、ポプラ並木線

## コンテンツ

- 特集 介護について考える
- あ・らいくな人
- 男女共同参画川柳を募集します
- 市民会議の活動報告

# 特集 介護について考える

従来、介護の担い手は家庭内でも仕事としても女性が主体でした。家族の介護に苦勞した（している）という女性も多いのではないのでしょうか。今では男性の介護職員も増え、男性が家族の介護をする姿も見られるようになりました。男女を問わず介護の担い手になる今日、介護うつ、老老介護、認認介護、介護離職などで地域から孤立してしまう話も少なくありません。

2025年問題といわれる、団塊の世代が75歳以上になることで起こる諸問題のひとつに、介護の問題があります。生きている以上、老いは避けて通れません。明日は我が身の「介護」について考えてみましょう。

## ■超高齢社会から多死社会へ

総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合のことを高齢化率といいます。高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」といいます。日本の高齢化率は2012年で24%であり、まさに「超高齢社会」といえます。ちなみに、岩見沢市の高齢化率は2017年1月1日現在で33.4%です。

団塊の世代（800万人）が75歳以上となる2025年には、

- 認知症高齢者数は470万人になる
- 介護難民が43万人に達する
- 年間死亡者数が現在120万人から160万人に達すると予想され、今よりも医療や介護の需要の増加と、それによる介護ケアの供給不足がさらに深刻になるといわれています。また、年間死亡者数の増加から「多死社会の到来」と表現されることもあります。

これらの高齢化に伴う介護・医療を取り巻く問題を上手に乗り越えていこうとする提案が「地域包括ケアシステム」の推進です。

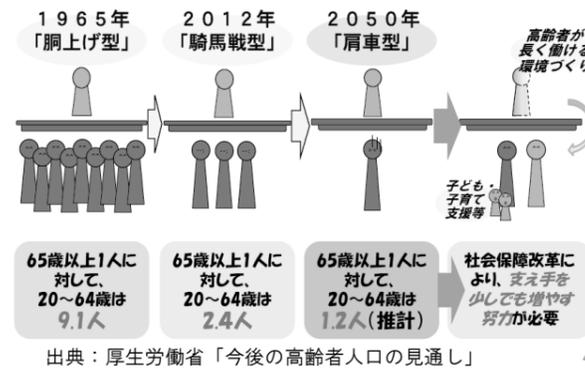
これら高齢化に伴う介護・医療を取り巻く問題を上手に乗り越えていこうとする提案が「地域包括ケアシステム」の推進です。

## ■地域包括ケアシステムについて

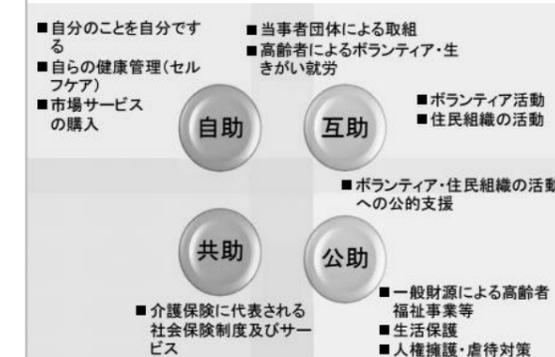
政府は、団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」・「医療」・「介護」・「介護予防」・「生活支援」の5つの要素が一体的に提供される体制（地域包括ケアシステム）の構築を目指し、既に動き出しています。

地域包括ケアに向けた取り組みに共通して存在しているのが「自助」「互助」「共助」「公助」という考え方です。

介護予防に取り組み、健康寿命を伸ばすという「自助」に加え、家族・親戚・地域で暮らしを助け合う「互助」、介護保険・医療保険サービスの利用による「共助」、そして生活困窮者への対策として生活保護支給等による「公助」という考え方にもとづき、地域全体で医療、介護、行政との垣根をなくしていくことが求められています。



地域包括ケアシステムの5つの構成要素



「自助」「互助」「共助」「公助」からみた地域包括ケアシステム

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケアシステムと地域マネジメント」（地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業）、平成27年度厚生労働省老人保健健康増進等事業、2016

## ◇地域包括ケアシステムのポイント

最大のポイントは、高齢者が住み慣れた地域での生活が続けられるよう、市区町村が中心となって「包括的」な支援・サービスの提供体制を整備していくという点です。これまで国主導であった高齢者福祉事業やサービスが市区町村主体で行われることで、行政・民間企業・ボランティア団体がより自由に自主的に地域づくりをしていくことが求められています。

もうひとつのポイントは、「住み慣れた地域で暮らし続ける」として「施設から在宅へ」とケアの場を移行しようとしている点です。2015年の介護保険法の改正で施設入所基準が要介護1から要介護3以上に厳格化され、これまで以上に入所・入院がしにくくなると予測されています。また、要介護認定のリスクが高まる後期高齢者数が前期高齢者数よりも多くなることから、対応策として「在宅ケア」が期待されています。

## ◇地域包括ケアシステムの中核機関 地域包括支援センター

地域包括ケアシステムをかたち作る中核機関として、各地域に存在するのが地域包括支援センターです。高齢者の方が住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、包括的及び継続的な支援を行い、市区町村と協力しながら地域包括ケアを推進していく機関です。

岩見沢市には現在4か所の地域包括支援センターがあります。

岩見沢市地域包括支援センター	0126-25-4649	岩見沢市4条西3丁目であえーる岩見沢4階
岩見沢市地域包括支援センターほろむい	0126-32-6622	岩見沢市幌向2条3丁目
岩見沢市南地区地域包括支援センター	0126-32-0300	岩見沢市南町7条2丁目
岩見沢市北地区地域包括支援センター	0126-33-5383	岩見沢市北2条西12丁目



## ■介護離職ゼロを目指して

在宅ケアの推進に際して気をつけたいのが「介護離職」。介護を行うために現在行っている仕事を退職してしまうことを「介護離職」といいます。日本での介護離職者は、年間約10万人といわれています。介護離職をしてしまうと、収入が激減したり、社会との繋がりが途切れてしまうなど、孤立する可能性が高まります。

また、介護離職は本人だけではなく、経験やスキルを持った人材を失う企業にとっても大きな問題です。厚生労働省では介護離職ゼロを目指した取組を始めています。平成28年の育児・介護休業法の改正では、介護休業の分割取得、介護休暇の取得単位の柔軟化や残業の免除、介護休業給付金の介護と仕事の両立支援の充実が図られています。民間企業でも介護離職ゼロに向けた独自の制度の導入を始めています。

家族が認知症になると、暴言、暴力、徘徊、昼夜逆転などの症状に、精神的にも肉体的にもつらい状況に追い込まれます。そのストレスから介護うつや虐待につながるケースもあります。介護と仕事の両立は容易ではありませんが、介護休業・介護休暇などの制度を利用する、介護サービスを有効利用する、親族で改めて話し合い手分けして介護ができる方法を考えるなど、介護離職を決断する前に方法がないか、一人で抱え込まずに周りと一緒に考えていただきたいです。

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けた取組は始まっています。

高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けることは、誰もが理想とするところでしょう。そのために欠かせないものが「地域包括ケアシステム」の推進といわれています。

私たち一人ひとりが今できることは、「自助」介護予防で健康寿命を伸ばし、「互助」家族・親戚・地域で助け合う仕組みを作ること。そして、自ら介護難民とならないために、介護離職などで社会から孤立しないために、制度を学び、賢く利用していくことが大切なのではないでしょうか。



参考：厚生労働省施策情報「地域包括ケアシステム」「仕事と介護の両立～介護離職を防ぐために～」

# あ・いらいくな人

いろいろな個性があるから  
いみじわがおもしろい

北海道中央労災病院で看護部長を務められ、平成28年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章された一柳 美由紀さんに、現職中の叙勲の経緯や、お仕事などについてお話をお聞きしました。

## ■瑞宝双光章を受章の経緯は？

当院も含め全国に34ある労災病院は、独立行政法人労働者健康安全機構に所属しています。機構では現職の看護部長を推薦することになっていて、職務経歴年数などから、今回は東北労災病院の看護部長と私が推薦されました。実は推薦を一度お断りしたんです。病院側から個人ではなく組織でもらうものだからって説得されてしまいました。

看護部長は看護協会、訪問看護ステーションの役員、介護認定など病院外で公の仕事に携わることも多く、看護業務を通じて広く医療の分野に貢献したということで、保健衛生の分野でいただきました。

叙勲の伝達式後に、皇居で天皇陛下に拝謁いたしました。受章もすごいことですが、それ以上に天皇陛下にお会いしたことがすごいことだなんて思いました。

## ■看護師を目指したきっかけは？

動機が不純なのですが…。母からずっと「女も手に職を」と言われて育ちました。高校3年に進路を考えたとき、就職するのは嫌だし、かといって大学に行くのも…となったとき、目に入ったのが美唄労災の看護学校の紹介。そこはお金もかからないし、3年間勉強できて、寮生活できて、手に職もつくなって。学校に入ってからしばらくは不純な志望動機を同級生たちには言えませんでした。でも、入った時に教諭に言われた「あなたのおかげで本当に看護師になりたい人が1人減ったのよ」という言葉が胸に刺さり、誠実に仕事をしようと思って働いてきました。

## ■看護部長、管理職としての想い

管理職はスタッフがいないと必要ないポジション。看護師が171人いるから、看護師長や看護部長が必要なんです。管理職の仕事は、スタッフが働きやすいようにすること。スタッフが働きやすければ、患者さんへの看護も良くなる。病院の一番の目的は良い医療を提供することなので、そこに繋げるためには働く人が元気でいなきゃいけないし、楽しく働いて良い仕事をしてもらわないといけないなと思ってやっています。

仕事人が人を育てるとも言いますが、良い看護師を育てることは難しいですね。看護学校は基礎の基礎。実務3~5年で土台ができる。その時期をどう育てていくかは、現場の師長たちの指導力が大きく影響します。その師長を指導するのが副部長や私なので、管理職の仕事は難しくて奥が深い。

## ■仕事と家庭の両立について

私は、病院ではちゃんとしてなきゃって思うんですけど、



「継続は力なり」  
「和して同ぜず」がモット

独立行政法人労働者健康安全機構  
北海道中央労災病院 看護部長

いちりゅう みゆき  
一柳 美由紀さん

### 【プロフィール】

- ・昭和32年3月生まれの60歳
- ・夫、次女、夫の両親と暮らす  
(長女は札幌、三女は東京)
- ・南幌町出身
- ・美唄労災看護専門学校卒業
- ・昭和53年から北海道中央労災病院に勤務、現在看護部長を務める

● 家ではダメダメ主婦のダメダメお母さんです。夫と娘は看護部長をしてると信じてくれないとか納得してない。  
● 今まで働き続けられたのは夫の両親のおかげかな。6年間の釧路労災病院への単身赴任も夫の両親がいたから安心して行けました。

● 職場では仕事と家庭の両立ができませんとよく相談されますが、両立しなきゃだめなの？共存しなさいって言うんです。子育てや家庭のことを100%やろうとしたら仕事はできないだろうし、逆もしかり。身は一つしかないんだから、両立しなきゃってがんばりすぎずに、どちらも適当に手を抜いて共存するのでもいいんじゃないって話しています。時には辞めたいという相談もありますが、組織として限界はありますが、可能な限りシフトなどをやりくりして働き続けていけるようにと考えてやっています。

● 私自身は家のことは適当なのでバランスが取れてるのかな。いい意味で家のストレスを病院で、病院でのストレスを家で発散してるというところがあるかもしれません。

## ■北海道中央労災病院の活動について

● 当院は働く人たちが病気をもちながらも働けるように支援しようという目的の施設なので、がんサロン、公開講座、健康相談など色々行っています。がん患者の就労支援もその一つ。当院には私を含めて5人の看護師が治療を受けながら働いており、治療や勤務形態に合わせて様々な対応で、まさに就労支援を実践しています。がんの治療をしながら働くことは、休みが自由に取れなかったり、治療のことを分かってもらえない大変さがありますが、そこを支援しようっていう動きを病院内外でしています。

## ■男女共同参画、女性の活躍推進について

● 女性が多い職場なので、一般社会とは逆になりますが、10人いる男性看護師の活躍に期待しています。看護師の給料は35歳まではぐんぐん上がり、その後はほぼ水平飛行。それは女性の給与体系だから。同じ病院内でも、事務職などの男性の給与体系に途中から追い越されます。男性看護師の活躍が、給与も含めた看護師全体の処遇改善につながっていくのではと期待しています。



朗らかな笑顔の一柳さん。優しさとその中にある芯の強さを感じました。取材させていただき、ありがとうございました。

# 第二回

# 男女共同参画

# 川柳コンテスト

募集期間

平成29年

4月3日(月)～5月10日(水)

## ★大賞(1点)★

図書カード  
10,000円分贈呈

## ★入選(5点以内)★

図書カード  
3,000円分贈呈

※大賞作品は、男女共同参画の啓発活動で使用させていただきます。

### 第一回男女共同参画川柳コンテスト 入賞作品

#### 【大賞】

男女とも 互い違いを あんでゆく 和久 留哉さん

#### 【入選】

多様性 広がっていけば	よい社会	澤田 歩佳さん
思いやる 互いに忘れぬ	その気持ち	川井 流叶さん
いい笑顔 そうさ誰も	主人公	杉山 武志さん
欲しいのは 「手伝うよ」	ではなく 「俺やるよ」	大友 明日花さん

違ってて	バランスとれる	男(ひと)と女(ひと)	坂上 千津子さん
------	---------	-------------	----------

## 男女共同参画社会って？

「女だから」「男だから」と性別にとらわれず、一人ひとりが「自分らしく」「生きていける社会、それが「男女共同参画社会」です。

○お互いを認め合うこと

○協力し合うこと

○自分らしく生きること

あなたが感じる身近な「男女共同参画」について五・七・五の川柳で表現してみませんか？

あなたの力作

ご応募ください！





# 男女共同参画川柳 募集要項



<男女共同参画を推進し、その趣旨を広め関心を高めることを目的に川柳を募集します。>

男女が性別で差別されず、一人ひとりが「自分らしく」生きていける  
男女共同参画社会の実現を目指し、あなたの思いを表現してみませんか。



応募内容	男女共同参画をテーマとした川柳
応募資格	岩見沢市に在住、在勤、在学の方
応募数	3点以内（重賞はありません）
応募期間	平成29年4月3日（月）～ 5月10日（水）必着
応募方法	<p>■持参、郵送、FAX またはメールにて下記の応募先までお送りください。</p> <p><b>【応募時の必要事項】</b></p> <p>・作品 ・氏名（ふりがな） ・性別 ・年齢 ・住所 ・郵便番号 ・電話番号</p> <p>以上を記入の上、ご応募ください。</p>
審査及び 発表・表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳正な審査を行い、入賞作品を決定いたします。</li> <li>・結果は入賞者本人に直接通知するとともに、「17男女共同参画市民フォーラム」及び岩見沢市オフィシャルサイトにて発表し、いわみざわ男女共同参画マガジン「ア・ライク VOL.16」に掲載します。</li> <li>・応募者全員への通知は行いません。</li> <li>・「17男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ」にて表彰及び作品掲示を行います。</li> </ul>
作品の 活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞作品はいわみざわ男女共同参画マガジン「ア・ライク」、「しみんかいぎだより」等の発行物や、岩見沢市オフィシャルサイトに掲載します。</li> <li>・男女共同参画週間（6/23～6/29）の啓発資材に使用します。</li> </ul>
応募及び 問合せ先	<p>いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議 〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号</p> <p>【事務局】岩見沢市総務部市民連携室 男女共同参画担当 【TEL】0126-23-4111 【FAX】0126-23-9977 【E-mail】danjo@i-hamanasu.jp</p> 
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募作品は返却いたしません。</li> <li>・応募は自作・未発表のものに限ります。</li> <li>・応募者は、作品が市の男女共同参画推進事業に使用されることを承諾したものとし、作品の著作権はいわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議に帰属します。</li> <li>・盗用、著しい類文が判明した場合は、受賞を取り消すものとします。</li> <li>・応募作品の発表等の際し、第三者から主催者に対して異議申し立て、請求、訴訟等がなされた場合、応募者はその一切を応募者の責任と費用負担により解決し、万が一主催者が損害を被った場合には、その被害を補填するものとします。</li> </ul>
個人情報の 取扱	応募者の個人情報は、応募者への連絡、作品の審査、展示等を除き、目的外に使用することはありません。

# 16男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ

テーマ:「違いをみとめ やさしい心であなたを想う」  
日時:平成28年6月29日(水)午後4時~6時  
会場:岩見沢市自治体ネットワークセンター



応募総数 730 作品。  
たくさんのご応募、  
ありがとうございました。

## 第一回男女共同参画川柳コンテスト表彰式

フォーラムの開催に先立ち、今年度から始めた男女共同参画川柳コンテストの表彰式を行いました。



<大賞>

男女とも 互い違いを あんでゆく

和久 留哉 さん

<入選>

多様性 広がっていけば よい社会

澤田 歩佳 さん

思いやる 互いに忘れぬ その気持ち

川井 流叶 さん

いい笑顔 そうさ誰もが 主人公

杉山 武志 さん

欲しいのは 「手伝うよ」ではなく 「俺やるよ」

大友 明日花 さん

違って バランスとれる 男(ひと)と女(ひと)

坂上 千津子 さん

## 講演「強さは優しさ 柔道から学んだこと」

講師: 山口 香さん (女子柔道メダリスト/筑波大学准教授)

紺色の細身のパンツスーツに身を包み、颯爽と現れた山口さん。テレビでの解説同様わかりやすい語り口で、男女共同参画をスポーツの視点、柔道の視点からお話しされました。

女子柔道のパイオニアと言われる山口さんが、真の意味での女子柔道のパイオニアと話すのは、女子柔道の母と呼ばれる二人の女性。

明治15年、嘉納治五郎先生により創設された講道館柔道。大正15年に発足した講道館女子部に、嘉納先生の勧めで入門したのが一人目の「柔道の母」福田敬子さん。今よりもっと女だてらにと言われた時代に、柔道に生涯を捧げ、53歳で単身渡米され99歳で亡くなられるまで、世界各地で柔道の発展に尽力されました。

もう一人の「柔道の母」はアメリカのラスティ・カノコギさん。嘉納先生は当初、女性が試合をすることはまだ早いとおっしゃっていました。その言葉のおかげで、女子選手は長らく試合ができずにいましたが、ラスティの情熱で、昭和55年に第一回世界女子柔道選手権がニューヨークで開催されることになり、日本代表として山口さんも参加しました。この二人のおかげで今日の女子柔道があります。

スポーツをするということは自己表現であり、「女だから我慢しなさい」という考えのない社会を創っていくようにスポーツを通して発信していかなければならないと強調されました。



女子スポーツ全体では、平成24年(2012年)のロンドンオリンピックで歴史的なことが二つ起こりました。一つ目は26競技すべてにオリンピック史上初めて女性が参加した大会ということ。二つ目は参加した204の国と地域すべてから女性選手が派遣されたということ。しかし、現在でも世界の多くの国で女性であることを理由に教育を受けられなかったり、スポーツができない国があります。世界中の女性が好きなことができるように心を寄せていかなければなりません。女性の問題だからと言って女性だけではなく男女で考えていきましょう。これこそが男女共同参画だと思いますと語りました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを、男女共同参画の問題をはじめ各種の問題に各自がどう関わり、未来に何を発信していかなければならないかを考える良い機会としていきたいと話されました。最後に男女共同参画と言うとちょっと自分たちとかけ離れているように思いますが、そんなことではなく、まず家庭から男女共同参画、相手を理解することから始めていけると良い社会、住みよい社会になるのではと期待を込めて締めくくられました。

# 第9期 女性のためのステップアップ講座

「女性のためのステップアップ講座」は、女性が自分磨きをするより良い場を目指しています。何期も受講される方も増え、受講をきっかけに新たな活動を始める方などもおり、講座を開催している効果が表れていると感じています。

## 第1回「岩見沢の史跡巡りの旅」 10/5

郷土史を学ぶ会会長 おざきかずお 尾崎和男さん

岩見沢市指定文化財のうち、3つの有形文化財を巡るバスの旅。岩見沢神社の境内にひっそりたたずむ巖見澤紀碑、大正6年に建てられた国兼家住宅、鎌倉時代中期の作とされる大願寺の阿弥陀如来立像を見学。大願寺では住職のご配慮で仏像を間近で拝見させていただきました。感動しました。



10/12

## 第2回「まちと自然のいいところ暮らし」

岩見沢市地域おこし推進員 よしざきゆき 吉崎祐季さん

百聞は一見に如かず。バスの旅第2弾。吉崎さんが主に活動している東部丘陵地域の中から、ポンネ湯、スクラップアート美術館を見学。車内では吉崎さんの生い立ちや海外での経験、地域おこし推進員に応募した理由などを伺いました。地域おこしは始まったばかり。数年後、どのような活動ができたのか、もう一度お話を聞いてみたいと思いました。

## 第3回「カナダ人からみた岩見沢の子育て」 10/19

英会話講師 たにうち 谷内ローリさん

英会話講師として来日する前は、日本人はみんな着物を着て、お寺みたいな家に住んでいると思っていたと話したローリさん。出産、育児、学校生活などでの文化の違いを笑顔で伝えてくれました。子どもが直面している「ハーフ」の問題の話では真の国際化や多様性を受け入れることについて考えさせられました。



10/26

## 第4回「女性として生きる ~人の一生、仕事のやりがい、そして今を歩み続けるために~」

岩見沢市立総合病院助産師 なかじまゆかり 中島由香里さん

上級思春期保健相談士として病院外でも活躍する中島さんのお話は、受講生同士で互いにほめあう「ほめほめシャワー」の実践からスタート。助産師として経験してきた様々な出会いと別れの話は心に染みるものがありました。出産、育児、更年期などまだまだ聞きたいお話がたくさんありました。

## 第5回「子ども食堂の役割 ~地域との関わり~」 11/2

にじ色子ども食堂代表 やすだかおり 安田香織さん

全国に広がりを見せている子ども食堂を、道内でいち早く札幌市豊平区に立ち上げた安田さん。子ども食堂＝貧困対策と思われがちだけど、目指すのは地域での子どもたちの温かな居場所づくり。学習スペースやフードバンクなどの取組みも開始。子どもたちの未来のために、と力強く話す姿に感動しました。



# 平成28年度 市民会議の活動

平成28年度も、市民会議では様々な活動を行いました。その中から主な活動を写真でご紹介いたします。和気あいあいとした楽しい活動を続けています。

## クリーン・グリーン作戦

日時:平成28年5月21日(土)

場所:はぎぞの緑地(集合)



天候には恵まれましたが、残念ながら桜はすでに終わりごろ。多くの人が一斉にゴミを拾う様子は、今や岩見沢の風物詩なのでは。私たちが赤いベストを身につけ、片手にゴミ袋を持ち、人波に流されながら、男女共同参画をPRしました。年々ゴミは少なくなっている様に感じられます。ゴミの総重量当てクイズも実施され、賞品はお米 10kg 他など。参加する楽しみも倍増するかも!?

## 男女共同参画週間街頭啓発

日時:平成28年6月24日(金)

場所:ビッグハウス岩見沢店前



6月23日から29日は「男女共同参画週間」です。昨年同様、空知総合振興局、男女共同参画いわみざわと合同で街頭啓発を行いました。今年は大和タウンプラザ内のビッグハウス岩見沢店前で実施。用意した啓発グッズは1時間も経たずに配り終わりました。市民の方々に男女共同参画に関心を持っていただけるように、これからも活動していきたいです。

## デートDV出前講座

日時:平成28年11月15日(火)

場所:岩見沢緑陵高等学校



昨年に引き続き2度目の出前授業。デートDVは恋人間で起こるもので、身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・性的暴力の4タイプが複雑にからみあって起こっています。束縛は愛情ではありません。付き合っていて「つらい」「なんだか怖い」と感じたら、誰か信頼できる人に相談しましょう。相手を束縛せずにお互いを大切に思ってデートをしましょう。今回のロールプレイは、芸達者な男子生徒が女の子の役を演じ、拍手喝采でした。

# 日本女性会議2016秋田

みつめて みとめて あなたと私 ~多様性(ダイバーシティ)とは~

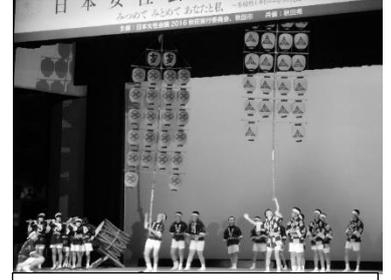
日時:平成28年10月28日(金)~29日(土)  
場所:秋田県秋田市 秋田県民会館他

日本女性会議は、国際婦人年(1975年)とそれに続く「国連婦人の10年」を記念し、1984年に名古屋市で第1回大会が開催されました。以来、男女共同参画に関する国内最大の会議として、男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決を探るとともに、参加者相互の交流やネットワーク化を図ることを目的に各都市で開催されてきました。

秋田県民会館のメイン会場に入り、目に飛び込んできたステージ脇天井まで届く竿燈の一張りに圧巻。開会式の後には内閣府男女共同参画局長の武川慶子氏の基調報告。そして1日目のメインであるヘアメイクアップアーティストとして活躍している藤原美智子氏の記念講演。「どんな人がきれいですか?」という問いに「いきいきした人です」という話から始まりました。人を綺麗にすることを職業としている方のお話は、知らない世界が垣間見え、興味深いものでした。1日目の終わりは交流会。秋田の郷土料理や50種類の地酒に感激。色々な方々と交流できました。

2日目は分科会からスタート。10の分科会のうち第1分科会に参加。講師は女性学・ジェンダー研究のパイオニアであり、高齢者の介護問題にも精通する上野千鶴子氏。「女性たちの今。そして未来をつくる。女性参政権から70年 雇用機会均等法から30年」をテーマに、現代の問題を浮き彫りにする飾りのない自然体のお話は好感が持てました。午後は「秋田発『ケアリング(気遣いあう)社会』をめざして~生活の場から『多様性』を考えよう~」と題したシンポジウム。全国の中でも人口減少、高齢化が進んでいる秋田。幸せで豊かな社会を築いていくためには、多様性を尊重し気遣いあう社会を作っていくことが大切であるとお話は感動しながら聞き入りました。

来年は「日本女性会議2017とまこまい」。今から楽しみです。



開会アトラクションは見事な小学生の竿燈演技



交流会には「なまはげ」も登



第1分科会の後半は対談。上野さんとパネラーのやり取りも見ごたえがありました。

## 編集後記

春の北海道新幹線開通は道民にとって嬉しい出来事でしたが、夏には台風が三度も上陸し、家や鉄道が流されるなどの大きな被害に心が痛みました。

さて、私たち市民会議は、この一年、男女共同参画の啓発と自分たちの学習に取り組んで参りました。この一年の活動を「ア・ライク」に収めましたので一読していただき、ご感想やご意見をお寄せいただけたらと存じます。

来年度も社会情勢を肌で感じ、それに沿った活動をして参りたいと思っております。

## 市民会議メンバー募集中

いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議では、一緒に活動していただけるメンバーを募集しています。男女共同参画への理解を広めるため、岩見沢市と協働で様々な取り組みを行っています。

活動はそれぞれのライフスタイルに合わせて不定期です。年齢や性別などは問いません。女性も男性も、ぜひお気軽に下記事務局(発行元)までお問い合わせください。

ア・ライク  
VOL.15  
2017年3月

発行 いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議  
【事務局】岩見沢市総務部市民連携室  
〒068-8686  
岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
☎0126-23-4111(内線422)  
E-mail: danjo@i-hamanasu.jp

企画・編集 岩見沢市男女共同参画情報誌編集委員会